平成27年度 第3回新宿区文化芸術振興会議（第3期） 議事要旨

■開催日時 平成28年3月28日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第4委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 乗松好美 松井千輝 大野順二

原口秀夫 大和滋 舟橋香樹（欠席 根本晴美、市川治郎）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く。)

事務局 加賀美地域文化部長 橋本文化観光課長 原文化観光係長 土肥主任

■議事の振興

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(1)から(3)を一括して審議することを確認した。

2 議事(要旨)

(1) 前回の会議の内容について

資料1-1及び資料1-2に基づき、前回会議(平成27年12月8日開催)の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

(2) 「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム2015」の実施報告について

資料2に基づき、事務局が説明を行った。

(3) 新宿区文化芸術振興会議(第3期)の活動報告書(案)について

資料3に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

(4) 意見交換

【以降、意見交換】

- ・フィールドミュージアム憲章については、憲章とは何かという議論がまだ具体的にできておらず、フィールドミュージアム開始から5年経過しての今という観点をどうするのかという問題もある。
- ・新宿文化センターは、これから1年で意識調査を行って運営方針を見直すとしたが、フィールドミュージアムの展開の中で新宿文化センターの役割を見つけ出せれば良いので、その議論を重ねたい。
- ・情報発信と基盤は、まだまだ議論の余地がある。オリンピック開催を控え、国内外の来街者がここ数年はかなり重要になってくると思われるので、新宿観光振興協会がどのような展開をするのかもきちんと議論しておかないといけない。
- ・(仮称)フィールドミュージアム憲章の制定について、具体的には、2020年以降のレ

ガシーを作っていくためのプロジェクトとして、新宿フィールドミュージアムがどう
いう活動をしていくのかということ、目的、スケジュール、体制、その具体的な内
容まで含めて記載されたものがフィールドミュージアム憲章となるのであれば、素晴
らしい。

- 広報活動に関しては、文化プログラムのデータをフィールドミュージアムで整えて、
うまく設計すれば、網羅的に探すことのできる仕組みになるのではないかと。その仕組
みを構築する際に非常に重要なことは、プログラムを主催する側が自ら入力できるこ
とであり、閲覧側からすると、自分の好みに応じて表示できるようにすることも重要。
- ネットアクセスが苦手な方に向けた配慮や対応として、紙で出力する、あるいは音声
ガイドや外国語の自動翻訳の機能を組み込む等の技術的なハードルはあるが、少し時
間をかけて考えれば、素晴らしい仕組みができるのではないかと。そういう仕組みが完成
すれば、それぞれガシーになる気がする、チャレンジしてみても良い。
- 文化センターの問題については、第2期からずっと考えているが、やはり未だ結論が
出ていない。文化センターというハードの施設を展示や催し等で利用したい方は、そ
の計画を2年以上前から立てることもあるので、施設をこれからどうするのかという
方向性は、ある程度早く展望を示す必要がある。
- フィールドミュージアムのトークイベントでの、アートディレクターのコメントが、
非常に有益だと思う。区もこういった催しを企画する時には、この職種の方のアイ
ディアをいただくのも一つの手だと思う。
- クリエイターズフェスタをフィールドミュージアムに組み込むことはできないか。ク
リエイターズは芸術家なので、同じフィールドミュージアムの中に組み込んでいく方
が、より層を厚くすることができるのではないかと。
- 東京オリ・パラは非常に大きなイベントなので、企業はそれぞれの業種を通じて東京
オリ・パラでこんなことをやりたいという事業展望を持っている。そこにうまく絡む
ようなテーマでこの文化芸術のイベントを提案すれば、金銭的な支援・協力の可能性
はある。こういうビッグイベントでは、大体の企業は別の予算枠を用意しているのが
常で、特に新宿には、登記上新宿に本社を置いている企業が相当あるので、新宿区と
しても「私たち区民」である企業に、資金的援助の声をかけるのもアイデアではな
いか。
- 文化センターをどうするかは、頭の痛い話だと思う。パイプオルガンも含めて何か策
を考えなければならない。いかにして告知するか、知らしめるかということが一番の
ポイントではないか。友の会等で手元に情報が届くことが、告知の手段としては一番。
- クラシック音楽、オーケストラの観客も高齢化が進んでおり、いかに新しい観客を開
拓するかというのが最大の課題だが、決定打がない。アンケートは、集めるだけで何
もしないのではなく、その情報をいかに反映するか、アンケート内容によって、取り
組みを変えていくかが今後の展開に影響してくる。フィールドミュージアムでもアン
ケートをいかに活かせるかが重要。
- 最近ではQRコードをかざすと、その施設等の情報が多言語で表示され、看板を見な
くとも自分のスマートフォンでその情報を見ることができる仕組みがある。区内の施
設もそういう仕組みをどんどん活用していくと良い。

- フィールドミュージアム憲章が具体的であることは大事だが、読みたくなるような分かりやすいことを目標にしていきたい
- 文化センターについて、利用していない人にも「どういう催しがあれば文化センターに行きますか」という趣旨のアンケートを取ることも必要。
- 情報の一括管理と発信については、媒体をどうするかはきちんと検討すべきことで、せっかく立ち上げて、有効に機能しないようでは勿体ない。
- あまり文化芸術に関心のない方にも、いかに関心を持ってもらえるかに繋げることが大切なので、議論ができれば良い。ターゲットを絞るイベントももちろん大事だが、逆に、年代を問わずいろいろな人が参加できるイベントも用意すると幅が広がるのではないか。
- 新宿フィールドミュージアムの名称については、そのまま残したいのであれば、誤解を与えないように、「これはこういう思いのもとにつけられた名前です、私たちは大切にします」ときちんとした意思表示をして使うことも必要。
- 文化センターのあり方については、新宿区の公立劇場として文化の拠点として発信するのか、今までどおり現状維持のままソフトランディングにするのかといったところを、ある程度トップダウンでメッセージを打ち出すことも必要。結論がはっきりせずもやもやしている部分もあるので、ある程度強いメッセージを区として発信することも必要。
- 文化芸術は、福祉や教育の面が、新宿区の場合は少し弱い。新宿もこれからますます高齢化が進んでいく中で、増加する高齢者の文化芸術への関わり方の検討はとても大きな問題。高齢者が健康で生き生きと文化芸術に関わることで福祉予算も削減されるため、そういったことまで踏み込んでこの会議で提言できると良い。
- フィールドミュージアムのロゴを、もっと使用しても良い。
- パラリンピックもあるので、障害者の文化芸術活動の支援について歴史博物館を中心に検討しても良いのではないか。
- 新宿駅の南口が大きく変化しており、新宿区の特徴は次から次に変化していくことであるが、その変化をある程度、意識的に記録していくことが必要。記録をきちんと残すことを、歴史博物館等で意識的に計画を立てたら良い。
- 総務省の管轄で新宿区には直接関係ないし、区の考えもあると思うので、触れない方が良いのかもしれないが、新宿の住友ビルにある平和祈念博物館は一括管理する情報の中には入れておいても良い。
- 歴博で佐藤美術館の作品展があったが、そういうことを顕彰として取り上げてても良い。
- 新宿フィールドミュージアムという名称は、非常に残しておきたい。名称の成り立ちの一つとして、新宿はいたるところに文化財があって、そこへ行くとそれを見ることができる。この言葉のイメージを定着させるには、歴史的な文化財やあちこちにある彫刻を紙面上に掲載すれば、新宿全体がミュージアムだというイメージが掴みやすくなるのではないか。
- 具体的なところまで踏み込めなかった理由の一つに、5年経過したフィールドミュージアムの評価や実態がどうなっているのか、いまひとつ十分把握できず、方向性を決めきれなかったことがあった。来場者・参加者の人数はかなり変動しているが、どうい

人たちがどんなふうに訪れているのか、その現状が十分に分かっていない。また、学校現場や福祉現場においても、文化芸術を本当に必要としているのかどうか、新宿区の実態がどうなっているかという踏み込んだデータがあれば、具体的なところまで議論ができると思う。

- 文化センター等の施設については、公共施設等総合管理計画の策定があると聞いているが、文化芸術振興会議から何かアイデアを提案していく必要がある。新宿文化センターの場合は、年間約50万人と、かけたお金に比べて利用者数は多いので、他の稼働率の低い施設に比べると優位という印象があるが、実際本当にそういう理解で大丈夫なのかどうか、計画策定までに急がなければならない。
- 情報のワンストップサービスはとても大切で、芸術天国やクリエイターズフェスタも、このワンストップサービスが完成し、使い勝手の良いものであれば、恐らく利用すると思う。仕組みを立ち上げれば、自分で動いていけるような自走式の仕組みを是非考えていただきたい。
- 都市文化の楽しみとして、食文化は非常に重要。新宿には、ゴールデン街のように時代のメインストリームである B 級グルメを出すところもあるので、観光協会と連携して「食べる」文化に焦点をあてて何か提供できないか。
- 新宿は、新宿区内のホテルに協力してもらって、新宿に合った情報提供を得ても良いのではないかと。ビジネス関係の宿泊のような客単価が低いところは、もっと違うものに興味関心を持つのではないかと。新宿の潜在力を最大限に利用するための仕掛けを、そろそろ考えても良いのではないかと。
- 恐らく、日本国内を見ても50万人規模の利用者がいる施設はそんなにない。何を催すかによるが、文化センターは今の方法で50万人利用者がいるということは、かなり集まっていることは確か。
- 文化芸術に関心のない人へのアプローチには、いろいろな方法があるが、この間オーケストラの調査では、アウトリーチが効果的であることが分かった。アプローチの仕方はいろいろあると思うが、新しい観客層も作りながら、もう1回来てもらってリピーターを作ることもしなければならず、そこには、パフォーマンスだけではなく、他の魅力も少し加えた方が良い。
- 情報発信についてだが、文化芸術に関する情報を一括発信する仕組みがあれば、来街者が、1週間ぐらい日本、新宿にいる時に、たまたまその時期に開催されているイベントを知ることができるようになる。その仕組みはどこが作るのかとなると、独立した組織が必要。
- 文化芸術の情報発信についても、やはり観光協会のような組織が運営をするのが良いと思うが、その枠組みを考える必要はある。もう少し全体を覆うような枠組み、広報の枠組みをきちんと議論した方が良い。
- 報告書(案)に、「ターゲット」と記載されているが、ターゲットというと文化の押しつけのような意味合いが感じられるため、それぞれの人が自発的に文化プログラムを選択し、参加することができる雰囲気を出したいので、報告書では、ニュアンスが伝わる違う言葉にした方が良い。
- 報告書は、一般の人に見せるものではなくて、むしろ行政や我々の考えをしかるべき

ところに知らせるものなので、ターゲットごとに分類せずに、取り組まなければならないが、考え方として、「ターゲット」とは異なる言葉を用いて報告書に入れることは良い。

- 東京オリ・パラについて、特にパラリンピックは大事で、特殊な話ではない。美術分野でも、アールブリュットの展覧会はアウトサイダーではなくアートイベントであって、特殊なものではないという視点が大事なので、パラリンピックやそれに関連するイベントも、オリンピック等と同じイベントとして皆に知らせる必要がある。
- 今回の議論で上がったご意見を専門委員会でまた整理し、報告書をまとめていただきたい。

3 事務連絡等

次回の会議は、6月頃を開催予定とし、日程や会場については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。